opusdei.org

属人区長の手紙 (2015年5月)

ハビエル・エチェバリア師は、5月の手紙で、家族との関係にある「最も小さな溝も埋める」ために、祈りに頼るよう勧める。

2015/05/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

諸国で特別に聖母に捧げられた五月 を迎え、ナザレの雰囲気をあらゆる 所にもたらすべきことが思い起こされます。特に聖マリアの模範を通して聖家族の諸徳と振る舞い方を伝えなければなりません。

今日は勤労者聖ヨセフの祝日です。 神は、地上における最高の宝、イスと聖母をヨセフに託されました。 聖母月の初日のこの祝日は、方により深く入り込むようの家庭は今、神の真の家庭は今、本者の住まである教会に、キリスト者の住まである教会に、また教会の中の「小さながれています。

このマリア年には、特別熱心に家族 関連の制度や機関のため根気よく祈り続けましょう。これらの制度や機 関が、神のお望みを全面的に反映 し、ベトレヘムやナザレで、そして イエスが旅の疲れを癒された様々な 場所で示された聖なる模範に倣った ものになるよう祈るのです。またべ タニアの家のことも考えないわけに はいきません。そこは、ラザロと、お リアとマルタが主をお泊めして、お かになっていただき、最上のすっていただき、 のように、ご承知のように、ご 割立者は、ご承知のように、変情深 く細やかに絶えず見守り、マリと共にイエスを礼拝するよう 勧めていました。

私たちはいつも家庭に聖家族の雰囲 気を再現するよう努めていますが、 聖家族に漂っていた落ち着きが反映 されない時もあることを不思議がっ てはなりません。ヘロデの迫害を大 急ぎでれなければならなかったと き、マリアとヨセフが遭遇した事柄 を考えてみましょう。それから、初 代教会においては、信者たちの一致 した和やかな生活描写と共に、 時々、迫害や周りの無理解、あるい は仲間の悪い振る舞いから、平和が 霞んだような叙述のあることを忘れ

てはなりません。しかし彼らは、聖 霊のおかげで困難を克服し、冷静な 忠誠心でイエス・キリストに忠義を 尽くしたのでした。

時たま、家庭内で信仰者特有の愛情 深い雰囲気を弱め、それが次第に壊 れていく争いが起こり得ます。この ような場合 一いつものように一祈り により頼まなければなりません。そ れは、家族間のもっとも小さな亀裂 をも修復し、社会の善に寄与するた めです。というのも「人々の希望と 世代間の調和は強く結びついてい る」[i] からです。教皇様は別の機会 にこうつけ加えておられます「子供 たちの兄弟姉妹のきずなが、他の 人々を受け入れる教育的な家庭環境 の中で培われるとき、その家庭は自 由と平和のよき学び舎になります。 (…) 世界に兄弟愛を伝えるのは家庭 そのものです。わたしたちはまだ、 そのことに気づいていないかもしれ ません | [ii]。

晩年の聖ホセマリアは、大小さまざ まな問題に関して助言を求める多く の人たちとの集まりを持っていまし た。その中には、反抗するように なった子供たちに悩んでいる家庭の 父親や母親が少なくありませんでし た。創立者は、彼らを落ち着かせる よう努め、青少年の反抗が、最近と みに増したとはいえ、いつの時代に もあったことを思い起こさせまし た。しかし、その対処法は祈りと共 に変わっていません。「子供たちと 落ち着いて接しなさい。それに値す るとしても平手打ちはいけません。 子供は激怒するし、あなたは心を痛 めます。子供を心から愛しているの で苦しみますが、怒りを鎮めなけれ ばなりません。もう少し忍耐を持 ち、腹立ちが治まったら、一対一で 諌めなさい。兄弟の面前では叱らず に、少し考えをまとめてから話し、 彼らに神をお喜ばせするような振る 舞い方が他にあることを気づかせる のです。こうして子供を教育するこ

とができます。そして将来、よきキリスト者としての歩みを続け、神がお望みなら立派な親になるでしょう。

まず避けるべきことは、優しさと厳しさの両極端を避けなければならないと言うことです」[iii]。

聖ホセマリアはこのような振る舞い 方を福音書から学びました。保護者 たちとの会話には、兄弟説諭という 言葉が使われてなくとも、その実行 法についての主の教えが簡単に読み 取れます。オプス・デイにおいて は、イエス・キリストご自身の教え に則ったこのキリスト者としての約 東事を実行するよう皆が努めなけれ ばなりません。このことを承知して おられた創立者はセンターを訪れる と「そこの様子を知る」ため、いろ いろ質問していましたが、その中の 一つが「兄弟説諭を実行しています かしでした。

聖ヨセフは夢の中で天よりのメッ セージを受け取ったと教わりまし た。このことに目を留められた教皇 様の忠告です。「夢を持たない家族 はないはずです。夢見ることを失っ た家庭では子供たちの成長はありま せん。愛は育まれず、命は衰弱し、 消えてしまいます」[iv]。そして、 毎日、休息する前に次のことを考え るよう両親たちにお勧めになりまし た。「今日、子供たちの将来を夢見 たか。今日、夫について、妻につい て思いめぐらしたか。今日、私の歴 史につながる両親、祖父母に思いを 馳せたか!「vl~

これは、私たちがしようとしていること全てに、種々の形で当てはまることです。日々、オプス・デイの兄弟姉妹のため、家族や使徒職に参加している人たちのため、祈ったかどうかを考えるようにしましょう。その時、彼らにとって最上のもの、もっとも必要としていることを神に

お願いしたかどうか、祈りの中で彼らをどのように助けるかを考えたかどうか…、見返りを待つことなく手を差し伸べることができたか。彼らはすでに私たちを愛しているのですから!

「使徒たちは、大いなる力をもって 一使徒言行録はこう語っています— 主イエスの復活を証しし、皆、人々 から非常に好意を持たれていたし [vi]。聖霊に鼓舞されて、使徒職を 妨害する障害を楽天的に乗り越えた のです。イエスの名によって侮辱さ れ、牢に入れられ、鞭打たれたこと で、苦しむどころか喜びに満たされ ていたほどでした[vii]。この不屈な 魂、障害に対するこの大胆さは、彼 らに与えられていたイエスの御母の 一彼ら一人ひとりの母でもあられた 一 ご保護の下で強められていたので した。聖霊降臨の日に慰め主がお降 りになってからは、子供としてのよ り強い信頼をもって聖母に接しまし

た。「弟子たちの祈りが 一このことを創立者はこう述べています一聖ー つに続きます。皆が心事を明れていたのです」 [viii]。唯一無二のまでは、特に伝統あるりに振るの時、このように振るの時、このように振るの間がある。こればなりません。この10月の教法に関するシノドスの実りを願うの新りを、信頼を込めて聖母の御手に委ねることです。

さらに、明日は5月の巡礼の習慣が できた80周年に当たります。世界中 で何万人の人々が自分のものにして いる習慣です。何十年も経ってか ら、ソンソーレスの聖母巡礼地をの ねたある時、あの1935年5月2日の思 い出を、聖ホセマリアはこう語りま した。「始まったばかりの今月、熱 心な祈りを聖母に捧げなさい。5月 の巡礼は本当に素晴らしい。昨日ソ ンソーレスに行きました。5月中に 世界中で一ヨーロッパ、アジア、ア フリカ、アメリカそしてオセアニアで一巡礼に行く人たちが皆、次々とソンソーレスにやって来たとしたら、年がら年中、聖母のエルミタを訪ねる人が絶えることはないでしょう」[ix]。

皆が、教皇様と司教様方そして全信 者と固く一致して、深い信心と熱意 をもって、教会と世界のため、家庭 と市民社会のため熱心な祈りを捧げ ましょう。そうすると人々に仕える 個人と共同の活動が、いっそう発展 し、多くの実を結ぶでしょう。創立 者は強調しました。「全ての使徒職 活動と、その進展のための道具は、 ヌメラリー、アソシエート、スー パーヌメラリーのonus et honor 役 目であり、栄誉 (…)です。それはま た協力者にも言えます。このような 活動は、ヌメラリーだけのものだと 考えるような人は、自分を偽ること になり、悪い精神を表し、寛大さに 欠ける人だと言えるでしょう。とい

うのも、私たちについて、また私たちの使徒職的な熱意について話すときには、いつも使徒言行録にある次のことを当てはめることが必要だからです。 multitúdinis autem credéntium erat cor unum et ánima una(使徒言行録4,32)、信じた人々の群れは心も思いも一つにし」[x]ていた。

4月最後の週に、一枢機卿でもある 大司教様のお招きで一 バレンシアを 訪れました。そこのカテドラルで、 ドン・アルバロ列福の感謝ミサを捧 げ、第二バチカン公会議でのドン・ アルバロの仕事について話しまし た。その上、多くの子供たちと、ま たオプス・デイの使徒職に参加して いる様々な年代の人々との集いを持 ちました。主がお望みになった霊的 実りを神に感謝する私を手伝ってく ださい。今月9日、聖エウジェニオ 教会で行われるヌメラリーの一グ ループの司祭叙階式のためにも私と

一緒に感謝してください。Deo omnis glória! 全ての栄光は神に!

1970年5月、グアダルーペの聖母に 対する聖ホセマリアのノベナを思い 起こして結びにします。あそこに赴 いたのは教会と教皇様のため、オプ ス・デイのために祈るためでした。 何と豊かな実りがあったことでしょ う。もし私たちが日々、ドン・アル バロのように、どこまでも忠実に創 立者の足跡を辿るなら、神の慈しみ と聖母の取次によって、引き続きふ んだんな実りがもたらされるでしょ う。初めて典礼上の記念日を祝う12 日には特別の熱意を込めてドン・ア ルバロに取次を願いましょう。

心からの愛を込めて祝福を送り、再 度お祈りをお願いします。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2015年5月1日

[i] 教皇フランシスコ、2015年2月11 日一般謁見の講話。

[ii] 教皇フランシスコ、2015年2月18 日一般謁見の講話。

[iii] 聖ホセマリア、1972年11月24日 家族の集まりでのメモ。

[iv] 教皇フランシスコ、2015年1月 16日フィリピンでの家族との集い。

[v] 同上。

[vi] 使徒言行録 4,33。

[vii] 使徒言行録 5,41参照。

<u>[viii]</u> 聖ホセマリア、「知識の香」 141番。 [ix] 聖ホセマリア、1969年4月29日 家族の集まりでのメモ。

[x] 聖ホセマリア、1954年5月31日手 紙 34番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/padreno-tegami-2015-5/(2025/12/10)